

体 育 科

平成27年度
上益城郡教育論文

『運動の楽しさを求めて、豊かにかかわり合う』
授業づくりを目指して
～体力を高める運動（体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動）の実践を通して～



益城町立広安西小学校

教諭 竹田 直樹

はじめに



これは、初めてダブルダッチができるようになった瞬間を収めた、貴重な一枚です。ここでは、軽快なステップで、できた喜びを味わう姿とともに、一定のリズムに保ってロープを回し、ともに喜びを感じる姿がありました。私は、この2人のかかわり合いに更なる可能性を感じました。そして、その先にある姿こそが、私が体育学習で目指す「運動の楽しさを求めて、豊かにかかわり合う」姿であると考えたのです。

子ども達の姿に学ぶことの多かった本実践を、論文にまとめてみました。ご指導とご助言をいただいて今後の実践に生かし、子ども達に感謝の気持ちを伝えることができれば幸いです。

目 次

はじめに

I 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 研究主題について
 - (1)「運動の楽しさ」とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (2)「豊かにかかわり合う」とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 主題設定の理由
 - (1) 小学校学習指導要領「体育科」の改訂より・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 子どもの発達段階より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 研究の構想
 - (1) 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (2) 研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (3) 研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

II 研究の実際

- 1 単元
 - (1) 単元名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (2) 運動の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (3) 体づくり運動の系統性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 児童の実態
 - (1) 運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (2) 態度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (3) 思考・判断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 研究の方法の具現化
 - (1)《視点1》指導内容の明確化について・・・・・・・・・・ 9
 - (2)《視点2》意図的・計画的な指導について・・・・・・・・ 11
 - (3)《視点3》豊かなかかわり合いについて・・・・・・・・ 13

Ⅲ 研究の分析と考察，成果と課題

1 分析と考察

- (1) 《視点1》指導内容の明確化について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 《視点2》意図的・計画的な指導について・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (3) 《視点3》豊かなかかわり合いについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

2 成果と課題

- (1) 《視点1》指導内容の明確化について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (2) 《視点2》意図的・計画的な指導について・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 《視点3》豊かなかかわり合いについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

おわりに

参考文献

I 研究の概要

1 研究主題

『運動の楽しさを求めて、豊かにかかわり合う』授業づくりを目指して
～体力を高める運動（体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動）の実践を通して～

2 研究主題について

(1) 「運動の楽しさ」とは

ア 体を動かす楽しさ

- 体を動かすことそのものが楽しいと感じ、「もっと体を動かしたい」「こんな運動もしてみたい」と思えること
- 自分に合った体力の高め方を知って、その運動を正しくできるようになることが楽しいと感じ、「記録がよくなった」「スムーズにできるようになった」と思えること

イ 分かる楽しさ

- 動きのポイントが分かること
- 自分の体力の高め方が分かること

(2) 「豊かにかかわり合う」とは

ア 自分自身とのかかわり

- 自分の課題に気付くこと

イ ものとのかかわり

- 体力を高めるための運動の場や用具を工夫（選択）すること

ウ 友達とのかかわり

- 動きのポイントを教え合うこと

3 主題設定の理由

(1) 小学校学習指導要領「体育科」の改訂より

① 小学校学習指導要領「体育科」の目標

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必

要性を増大させている。このような状況において、確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっている。現行の学習指導要領は，生きる力の育成に向けて，より具現化し充実させるという視点から改訂が行われたものである。

生きる力は，これまでと同様に，学校教育全体で育むことが求められるが，健やかな体の育成の基礎を担う体育科・保健体育科における役割は，ますます重要であると言える。中央教育審議会答申（平成20年1月）では，体育科・保健体育科について，次のような課題が指摘された。

〈体育の分野〉

- ① 運動する子どもとそうでない子どもの二極化
- ② 子どもの体力の低下傾向が依然深刻であること
- ③ 運動への感心や自ら運動する意欲，各種の運動の楽しさや喜び，その基盤となる運動の技能や知識など，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が十分に図られていない例も見られること
- ④ 学習体験のないまま領域を選択しているのではないかという懸念

〈保健の分野〉

- ① 今後，自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し，行動を選択していくことが一層求められること
- ② 生活習慣の乱れが小学校低学年にも見られるという指摘

現行の小学校学習指導要領「体育科」の目標は，上記の課題を踏まえ，改訂が行われたものである。

心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

以上により，「運動の楽しさを求めて，豊かにかかわり合う」授業づくりを目指すことは，体育科の究極的な目標「楽しく明るい生活を営む態度」を育てる上で，意義が深いと考える。

② 「体づくり運動」の充実

小学校学習指導要領「体育科」の改訂に伴い，「体づくり運動」領域の一層の充実が求められた。それまで小学校高学年から位置付けられていた「体づくり運動」が小学校低学年から位置付けられるとともに，発達の段階を踏まえた新たな内容として，「多様な動きをつくる運動（遊び）」が小学校低学年及び中学年で示された。【資料1】

【資料1】体づくり運動の系統性

1・2年生	3・4年生	5・6年生
A 体づくり運動	A 体づくり運動	A 体づくり運動
ア 体ほぐしの運動	ア 体ほぐしの運動	ア 体ほぐしの運動
イ 多様な動きをつくる運動遊び (ア) 体のバランスをとる運動遊び (イ) 体を移動する運動遊び (ウ) 用具を操作する運動遊び (エ) 力試しの運動遊び	イ 多様な動きをつくる運動 (ア) 体のバランスをとる運動 (イ) 体を移動する運動 (ウ) 用具を操作する運動 (エ) 力試しの運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動	イ 体力を高める運動 (ア) 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動 (イ) 力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動

また、「体づくり運動」では、体を動かす心地よさを味わい、日々の体調の変化や友達や仲間と交流する楽しさを味わうとともに、健康の保持増進や運動をするための基礎となる体力の要素やその高め方を理解すること、及び運動する意欲の向上を図ることなどの学習を充実し、心と体が一体であることに気付くことのできる資質や能力を高めることをねらいとするものである。

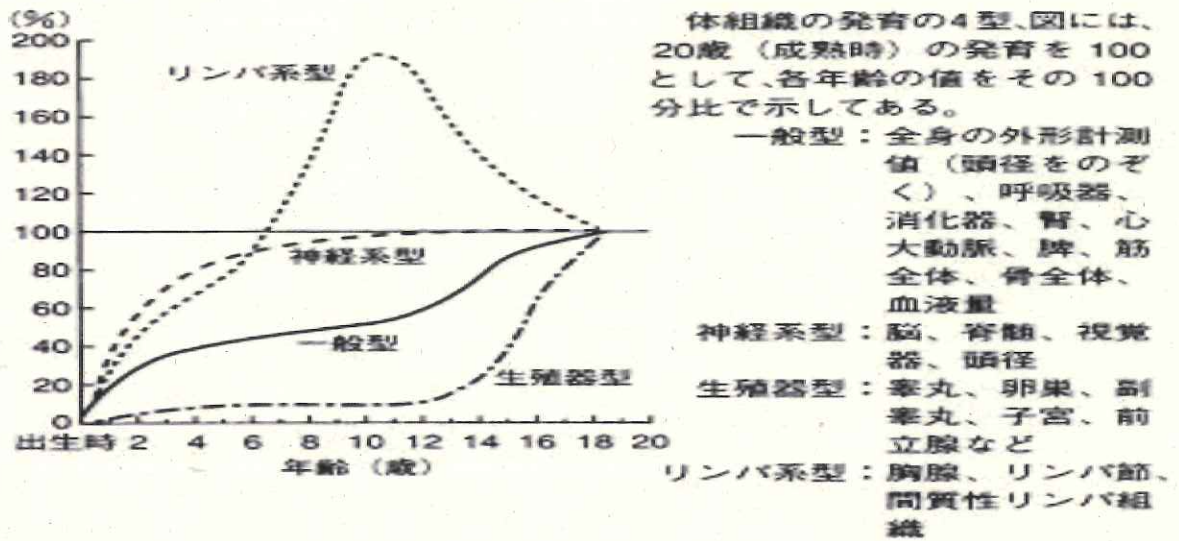
さらに、「体力を高める運動」は、運動を楽しく行う中で、体力の向上を直接のねらいとし、運動を通して学習する。中学年までの「多様な動きをつくる運動(遊び)」で身に付けた動きや動きの組み合わせをもとに、体力の必要性や体力を高めるための運動の行い方を理解し、自己の体力に応じて体力づくりが実践できることをねらいとするものである。

以上により、「体づくり運動」領域の「体力を高める運動」において授業実践を行うことは、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎」を育てる上で、価値が高いと考える。

(2) 子どもの発達段階より

『スキヤモンの発育曲線』【資料2】によると、小学生の時期は、神経系の発育が著しいため、様々な動きや運動を体験し、「動きをつくる」ことが大切である。また、この時期はスポーツとの出会いの時期でもあり、気軽に参加でき、楽しく運動できるような配慮が必要となる。中学生の時期になると、主に呼吸・循環器系の発育がさかんになるため、「持久力をつける」ことを目標にすると効果的である。15歳から18歳は生殖器系の発育が著しいため、「力強くなる」ことを目指すと効果的である。

【資料2】 スキャモンの発育曲線



小学校学習指導要領「体育科」においても、「体力を高める運動」については、「体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導する」ことが「内容の取扱い」に示されている。

以上により、「体力を高める運動」において「体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動」に重点化した授業実践を行うことは、「健康の保持増進と体力の向上」を図る上で、子どもの発達段階に即していると考えられる。

4 研究の構想

(1) 研究の仮説

身に付けさせたい指導内容を明確にして、教師の意図的・計画的な指導を行い、運動を通して豊かにかかわり合う授業の工夫を行うならば、児童が自ら学び運動の楽しさを実感するであろう。

(2) 研究の視点

《視点1》指導内容の明確化

- 学習指導要領において2年間にわたって示してある指導内容を、「どの学年で」「どの内容を」指導し、「何を」身に付けさせるかを明確にすること
- 明確にした指導内容を「指導計画と評価計画」に示すこと

《視点2》意図的・計画的な指導

- 指導計画と評価計画に示した指導内容を「具体的な子どもの姿」で描くこと
- 「いつ」「どこで」「どのように」指導するかを考えるとともにきめ細